

2017年度 体育学研究科(体育学専攻) 博士前期(修士)課程シラバス

科目名(副題)	開講年次(セメ)	授業形態	単位	担当者名
スポーツ社会学研究Ⅱ	1・2年次春学期 (1・3セメスター) 集中講義・隔年開講	講義 ※演習含む	2	高橋 義雄
<b>授業概要</b>				
現代スポーツの事象について一般社会学理論を踏まえて、その理論の適用可能性を検討するとともに、スポーツの現象から社会変動の萌芽を探索する。さらに、スポーツ社会学などの先行研究を取り上げ、これまで議論されてきたことについて検討する。				
<b>授業目標(到達目標)</b>				
スポーツ社会学の先行研究を紹介し、その研究が用いた方法論や理論について解説する。受講生は研究の妥当性について検討し、適切な方法論と理論について理解し、自らの研究に生かせるようになる。				
<b>成績評価方法・基準</b>				
授業での発表等の積極的な取り組み状況(50%)、レポート等の提出物の内容(50%)				
<b>教科書・教材・参考文献 等</b>				
[テキスト] 紹介する文献は適宜配布する。 [参考文献] 佐藤郁哉 『組織と経営について知るための 実践フィールドワーク入門』(有斐閣) 酒井隆 『アンケート調査と統計解析がわかる本』(日本能率協会マネジメントセンター) J.ユーカー/P.ドネー『現代スポーツの社会学』(南窓社)				
<b>授業計画</b>				
	<b>項目・内容</b>			
1	現代日本のスポーツの文化変容について学生の問題意識とディスカッション			
2	日本のスポーツの変動について(1) 戦後から高度経済成長・1964年東京オリンピック			
3	日本のスポーツの変動について(2) オイルショックからバブル経済の終焉			
4	日本のスポーツの変動について(3) 90年代から現在 スポーツの社会的役割の変化			
5	世界のスポーツと社会史 第2次大戦後の欧米と新興国			
6	スポーツによる社会開発と平和構築の動き			
7	スポーツとグローバリゼーション			
8	スポーツとインテグリティ スポーツの正統性とそれを脅かす事態			
9	スポーツと教育			
10	スポーツ社会学の理論(1):理論概論 J.ユーカー/P.ドネー『現代スポーツの社会学』(南窓社)			
11	スポーツ社会学の理論(2):個別事例への適用 J.ユーカー/P.ドネー『現代スポーツの社会学』(南窓社)			
12	日本のスポーツ社会学の20年			
13	学生の研究発表			
14	学生の研究発表に対する総合討議			
15	まとめ、最終質疑			
<b>履修者へのコメント・学習課題(事前事後学習)</b>				
J.ユーカー/P.ドネー『現代スポーツの社会学』(南窓社)と酒井隆 『アンケート調査と統計解析がわかる本』(日本能率協会マネジメントセンター)を用意して事前に目を通しておくことをお願いします。				